

Shake Hands



常滑国際交流協会

第88号 2012年1月31日発行

〒479-0837 常滑市新開町5-58 電話：0569-34-4797 FAX:0569-34-4930

E-メール: tia@japan-net.ne.jp ホームページ: http://www.japan-net.ne.jp/~tia/

2011年度 国際理解講座のお知らせ

2011年度 常滑国際交流協会 国際理解講座 ポーランドでの体験話・その2・ジェシュフから

常滑国際交流協会の国際理解講座として 講演会を下記により行います。

講師は当協会会員の肥田剛治さんです。肥田さんには昨年11月の「ポーランドでの体験話」の続きを「その2」として、2010年からのポーランドのジェシュフでの体験を話していただきます。

ポーランドは東ヨーロッパの国ですがあまり日本人が訪れていない国です。2年間滞在して観察し体験したポーランドの興味深い話がうかがえるものと思います。ぜひご参加下さい。

記

日時：2月18日（土）午後1時30分～3時30分

場所：常滑市民俗資料館 2階講座室

講師：肥田剛治氏 日本語講師

参加無料、申込不要です。



2011年度 常滑国際交流協会 国際理解講座 外国の観光客を常滑に迎えるには



常滑への外国からの観光のお客様は去年は他のどこの観光地とも同じように激減しましたが、後半になってから少し回復の兆しを感じられるようになりました。しかし現状のまま唯待っているだけではお客様は増えません。ではどうしたら良いかをテーマに下記により講演会を行います。

講師スティーブ・バイメルさんは京都で外国人に日本文化を紹介する旅行社を運営されていて、日本文化と外国のお客様に精通されています。

どうしたら海外から常滑により多くのお客様を迎えることができるか、皆様の参考になるお話がうかがえるものと思います。ぜひご参加下さい。

記

日時：2月28日（火）午後3時～5時

場所：常滑商工会議所 大会議室

講師：スティーブ・バイメル氏

（エスプリ・トラベル・アンド・ツアーズ代表）

参加無料、申込不要です。

ベルギーからお客様

1995年に「とこなめやきものホームステイ（IWCA T）」に参加したPatty Woutersさんが主宰するベルギーの陶芸グループの一行11名が12月3日午後常滑に訪れ、当協会のボランティアガイドが市内を案内しました。一行は静岡県島田市笹間で行われた「国際陶芸フェスティバルinささま」に参加し、ついでに常滑を訪問しました。

ガイドが英語で説明をするとPattyさんが聞きなれない言葉に通訳していました。ベルギーだからフランス語かと思いましたが、フラマン語（オランダ語の方言）だそうです。約4時間の駆け足ツアーでしたが常滑に親しみを感じ、楽しんでいただけました。

ベルギーでは三つの異なる言語を使う地域間に深刻な言語紛争があります。⇒詳しくは4頁の「世界点描」で。



2011年度 常滑国際交流協会 国際理解講座 要約
ポーランドでの体験話・日本語クラスの現場あれこれ

11月19日（土）に国際理解講座として行われました当協会会員の肥田剛治さんによる「ポーランドでの体験話」の講演を掲載します。

まずポーランドの国名は英語ではPolandですが、ポーランドでは「Polska」です。ポーランドの位置は



東欧と呼ばれ、ドイツの東でポーランドはドイツ、チェコ、スロバキア、ロシア、リトアニア、ベラルーシ、ウクライナの7カ国と国境を接しています。2004年にEUに加盟しましたが、EUの中では大きい国です。人口は約3800万人、国土は日本の80%位です。通貨はまだユーロではありませんが、物価が安く暮らしやすい国です。

ポーランドの国旗は赤と白で赤と白の国旗の国はトルコ、カナダ、インドネシア、オーストラリア、シンガポール等親日的が多いようです。ポーランドはヨーロッパの中でも国境線が最も大きく変化した国です。16世紀にはヨーロッパ最大の国でしたが、1795年から123年間国が消えたという歴史があります。



私は2008年9月から2009年7月までWroclaw（ヴロツワフ）に滞在し、2010年9月から2011年7月までRzeszow（ジェシフ）滞在了ました。2009年8月から2010年8月まで日本にいたのですが、この間に大

統領の事故死、大雪、洪水など大きな事件がありました。

Wroclaw（ヴロツワフ）は人口63.3万人で4番目に大きい都市です第2次大戦前はドイツでした。Rzeszow（ジェシフ）は人口約18万人でウクライナとの国境に近く、国際空港もあり、山に近い日本でいえば県庁都市で第1次大戦後のポーランド独立まで（分割時代は）オーストリア領でした。ポーランドは大きくA地区とB地区に分けることが出来ますがB地区は東側の4分の1程を指しA地区より遅れていると言われています。

私はこのように日本とポーランドを行き来しましたのでこの間は「日ボ人」だったと言えます。今日はその「日ボ人の見たポーランド」の話をします。ポーランドへ行く前ポーランドのことはほとんど知りませんでしたが、ポーランドへ行ってみたら分からないことが増えて、もっと分からなくなりました。今でもよく分かりません。



【写真】 Wroclaw（ヴロツワフ）経済大学

最初はWroclaw（ヴロツワフ）経済大学の日本語教室で日本語を教えました。日本語を教えるのはとても大変で90分の授業をするために準備に3倍以上の時間をかけていろいろと工夫をして教材を手作りしたりして用意しました。

参考までにポーランド語の例を紹介します。最初ポーランド語は「D」で始まる言葉が多いと思いました。最初に覚えたのは「寒い」ジムノという言葉でした。その次には「とても（Very）」バルゾでした。「バルゾジムノ」で「とても寒い」という意味です。挨拶の言葉は親しくなるためにとっても大切です。

ありがとう	ジンクィエ	dziekuje
こんにちは	ジェンドブレ	Dzien dobry
ありがとう	ジェンクィエ	dziekuje
どうぞ	プロシェ	prosze
おやすみなさい	ドブラノツ	Dobr anoc
さようなら	ドヴィゼニア	do widzenia

2011年度 常滑国際交流協会 国際理解講座
ポーランドでの体験話・日本語クラスの現場あれこれ

街には「カントル (KANTOR)」という看板が多いのですがこれは「両替」の意味です。街中に両替屋はとて多くて目立ちます。まだユーロではないこと、外国人が多いからです。

大学ではカンニングが多いと思いました、当たり前と思っています。バス、トラムの駅ごとに売店があります。売店ではバスやトラムの切符も販売しているのですが、土日は休みですのでまとめて買っておきます。店では、何でも「ありません」と言うのが当たり前でなんとも思っていないようです。キノコをよく食べ「キノコ狩り」にも行きますが、きのこの毒で死ぬ人年間50名程もあるそうです。薬屋と薬が多いと思いました。

私がポーランドへ行ったのは「日本語を教える」ことが目的です。日本語を教えるにはポーランドがいいと言うお薦めがありました。実際ポーランドには日本語を習いたい人が多かったと思います。

コピー屋が多くて、大学の教科書もコピーしていました。むしろ日本語の教科書もコピーでした。

工事中の工事現場がとても多い。コウノトリが沢山います。電車やバスは遅れるのは当たり前です。並んで待つのも当たり前、スーパーのレジも長蛇の列です



【写真】コピー屋



【写真】工事現場

が「何があってもポーランド」「バルゾ・バルゾ頑張るぞ」と自分に言い聞かせていました。でも無愛想に感じられるのは仕事の時だけで、普段は「おもてなし」精神の民族性だと思います。スーパーや売店などでは無愛想と言いましたが、やさしい面もあります。私の周りにいた人は皆やさしい人達でした。“客が来れば「神様」も付いてくる”と言う言葉もあります。

ポーランドでは姓の種類 40万種類 (日本は15万種類)、名前の種類は500種類 (聖書由来の名前) あるそうです。観光客が思ったより多いと思いました。ホテルのベッド数は不足しているとのこと。街の中に

はやたらと落書きが多い。中には落書きなのかアートなのか区別のつきにくいものもあります。

ポーランドは大変日本びいきの国です。日露戦争で日本がロシアに勝ったこと、また杉原千畝の「命のビザ」とか、1920年～1921年のポーランド・ソ連戦争の時にシベリアに流刑されたポーランド人の大勢の子供を日本人が助けた事などが親日の要因になっているとおもいます。阪神大震災の時には日本の被災児童がポーランドに助けられています。

私にはポーランドの料理は美味しいと感じました。主食はパンとジャガイモです。ケバブの店が多い。ケバブは削った肉をパンにはさんで食べます。

先程話しましたキノコは漬物にもします。キノコ狩りに行って取ってきますし店でも売っています。家庭の料理の伝統は母親から娘に伝えられますが、最近では男性も料理をするようになってきたようです。

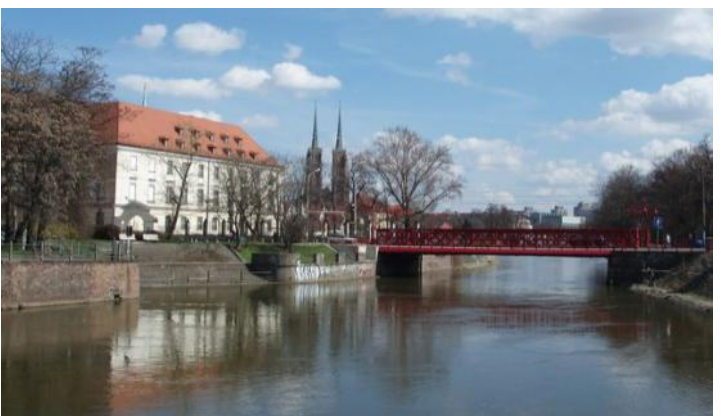
物価は日本の2分の1から3分の1くらいです。給料はフルシャワで平均10万円くらいでしょうか。食料品は特に安く、他の近隣の国から買物に來ます。北欧から酒を買いに來る人も多いようです。

多くの観光客の何割かはこうした買物のお客だと思います。私のポーランドについてのキーワードは「ヤ・オ・ヤ (ヤサシイ・オイシイ・ヤスイ)」です。

2004年までポーランドに対しては日本からはJICAが支援していて、日本語教育もそのプログラムに含まれていたが、EUに加盟してからJICAが撤退しました。私が行ったのはヴロツワフでは日本語授業が始まって3年目でした。各クラス週2回の授業をし、試験もしました。ジェシフでは私は最初の日本語教師で各クラス週1回 (90分) だけの授業でしたので、1年間で勉強する日本語は、動詞の活用の初歩まででした。

大学でも日本語教室は単位のようなことに関係がなく、したがって試験はありません。学生は日本や日本文化に関心があって勉強するだけです。丁寧な日本語 (～です。～ます。) を教えるようにしています。言葉を教えるための媒体の言語は「英語」です。英語は小学校から教えられていますので英語が出来ればなんとかなります。年配の人はロシア語ができるようですが、ロシア語は好きではないようです。

ポーランド語がもう少し出来ればと思います。「指差し“ポーランド語”」の本は大変役にたちました。



世界点描



ベルギーの言語紛争

Shake Hands staff

ベルギーでは三つの言語が話されています。北部フラマン地域ではフラマン（フランドル）語（オランダ語の地域方言）、南部地域ではワロン語（フランス語の地域方言）、東部地域の一部はドイツ語（ほぼ標準ドイツ語）が使われています。

三つの言語とも国語（公用語）になっていて、それぞれの言語の使用者の割合は次のようです。

フラマン語（オランダ語の地域方言）	58%
ワロン語（フランス語の地域方言）	31%
その他（ほぼ標準ドイツ語）	11%



【図】ベルギーの言語地図

少数のドイツ語圏を除き、建国以来、北のオランダ語圏（フラマン語）と南のフランス語圏（ワロン語）の関係は良くありません。最近では2007年の総選挙後、両地域の自治問題などの交渉が決裂し、内閣が組閣できない政権不在期間が半年以上続いたなど、一時は分裂の危機にまで陥りました。

北の自治拡大要求が強まっています。また北ではフラマン語（オランダ語）が話せない住民への圧力が強まっています。昨年10月の地方選挙では、この問題をめぐって主要政党の対立が深刻化し、「オランダ語圏の分離独立」を訴える極右政党が支持を集めたとのこと。

現在の両者の対立は経済的な差によるところが大きいのですが、異なる言語はアイデンティティーの違いにつながる大きな要因です。

メディアが伝えるほど険悪な雰囲気は漂っていたり、両市民の間で衝突が起こったりしているわけではなく、あくまで政治上の対立で、現在はちゃんと連邦政府もあり、日常生活はいたって平穏です。

北のオランダ語圏（フラマン）の中にあるブリュッセルは基本的にオランダ語とフランス語の二言語共存地域なので、例えば地下鉄の駅も二ヶ国語で駅名が表示されています。フランス語で“Art-Loi（アルロワ）”という駅名は、オランダ語では“Kunst-Wet（クンストウェッ

ト）”駅です。意味は両方とも同じ、“芸術—法律”ですが、両方の言語を知らなければ、想像力を働かせても同じ駅名とは分かりません。

生活用品の包装も最低フランス・オランダ2ヶ国語での表示が義務付けられています。大抵の商品にはドイツ語、さらに輸出製品だと英語、スペイン語から北欧語・東欧語まで細かい字でびっちり記載されています。



【写真】ブリュッセルの中心グランプラス

他のEU諸国でも電化製品などではEU加盟国の言語のすべてが記載されマニュアルはやたらに分厚くなります。

ベルギーの国民はどの言語を主に話すかによってそれぞれ背景の文化が違いますし、昔からお互いに国内の別の言語をそんなに熱心に学ぼうとする様子が無かったようです。首都ブリュッセルは例外で、フラマン語地域であるにも関わらず大体生粋のフランス語を好んで話しています。ブリュッセルではヨーロッパ共同体EUの本部がありフランス語と英語が飛び交っています。

ベルギーの他にも一つの国で多言語が使われていて、国の中で言語紛争が絶えない国が沢山あります。多言語国家というのはなかなか大変です。

世界中に多様な言葉が存在するのは、バベル（混乱）の塔を建てようとした人間の傲慢を、神が裁いた結果だと聖書にあります。私達がたった一つの外国語の学習にさえも悩まされるのもバベルの塔のたたりなのでしょう。



図のバベルの塔の名画はフランドルつまり北部ベルギーの画家ブリューゲル（1525～1569）の作品です。